

Faire till 転生したら友達になった人の魔法が使える男の娘

魂魄玉木

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

まあ可愛らしいクレアを見守ってくれ

目次

ギルド入団

私こと白鷺白兎へしらさぎはくとは、真白な空間にいるのですよ
兎「あのおのく誰かいませんか困ったな」

歩いた先に綺麗な女性がいたので

美人「白鷺白兎さんですね？」

兎「そうですが貴女は」

美人「私は、アストライア天秤の女神ですわ」

兎「あれっ正義の女神とも言われる女神様が何の様でしょう？」

アストライア「申し訳ありません？ミスで貴方を死なせてしまいました
した☒」

兎へ困惑「えっえっ？何がなんだかわからない」

女神説明中くくく

兎「なるほど理解しました私どうするのですか？」

アストライア「そうですね・・・別の世界で生きて貰います」

兎「それって転生というものですか？」

アストライア「そうですね、何をしますか」

兎「それよりもどこの世界なんですか？」

アストライア「チョット待つてください・・・Fairer ti
11の世界です」

兎「身体を丈夫にしてください後は友達ができれば良いんで」

アストライア「本当にそれだけで良いんですか？」

兎「うん♪そこまで力欲しく無いんで虚しくなるんで（ω・）」
アストライア「そうですね・・・分かりましたでは時間です貴方
の運命に幸福が在らんことを」

兎「さて友達作るゾ」

アストライア「あのままじゃ可愛そうなので特典足しておきますか
耐久力と魔力を規格外にして固有魔法をレギオンとゲノムミクスに
して容姿前世も可愛いらしかったけどもっと可愛らしくしましょう
??」

マグノリア近辺の森

兎? 「うにゆう此処は、森かあくさてどうしようかな・・・ん?」

九尾 「貴様何者だ?」

兎? 「クレアだよ?」

九尾 「そうか・・・此処は危ないから早く此処から去りなさい」

クレア 「この場所初めて来るから何処やら分からない?」

九尾 「そうか・・・なら着いて来ると良い」

男の娘説明中

九尾 「そうかさん事があったのか・・・」

クレア 「うん♪そこまで気にしてないし九尾さん友達になつてくれる?」

九尾 「いいぞ・・・私の名前は藍だ宜しくなクレア」

クレア 「うん♪よろしく藍♪」

藍 「着いたぞクレア・・・クレアは、F a i r e t i l l というギルドに入ったら良い」

クレア 「ありがとう藍またね」

藍 「嗚呼ヤバかった可愛い男の娘だったもう少しである意味襲つてしまう所だった」

男の娘移動中くくく

クレア 「此処が藍が言っていたギルド?かな」

そういうとギルドに入つて行つた

その時クレアは、後悔したそうな・・・

女性 「貴女依頼ですか?」

クレア 「藍つて言う人に聞いてギルドに入りに来ました。クレアですちなみに容姿で間違えられるんですけど男です♪」

女性 「／／／へ何あの可愛い生き物本当に男の子いや男の娘?」私
は、ミラよ。宜しくね」

クレア 「うにゆうよろしくお願いしますミラさん友達になつてくれますか?」

ミラ 「／／／へええ?何か思惑があるの?いやこの子純粋に友達が欲しいからなのかしら?」良いわよ」

クレア 「うにゆう♪ヤツたく友達これで二人目だあく♪」

少年「戻ったぞー」

ミラ「お帰りなさいナツそれと後ろの娘は？」

少女「ルーシーです宜しく」

ナツ「そいつも入って来たのか」

クレア「・・・うにゆう・・・スウスウ・・・」

ミラ「ああこの子ね・・・クレアていうの男の子よ・・・」

ルーシー「こんなに可愛いのに男の娘って言うの？本当に男の娘って実在したんだてか寝てるし」

ミラ「本当に寝てるわね♪」ミラはそういうとクレアに膝枕をして頭を撫で始めた

クレア「うにゆう♪えへへ♪へ九尾ゲノムミクス」ぴよこん狐耳ルーシー・ミラ「・・・可愛い??」

ナツ「ん？なんだこいつから獣の匂いがいきなり出てきた」

ミラ「それだけじゃない狐の耳が出てる尻尾も」

クレア「ふああいつの間に寝てたウニユなんで膝枕されてるの

Σ（・□・；）」

ミラ「その耳と尻尾は、九本あるわよね・・・」

クレア「それは私の魔法ゲノム・ミクスていうの友達になった動物の能力と力を行使することができるんだ♪」ヒヨコヒヨコ♪と耳を動かして

えっへんとクレアがすると微笑ましい空間になっていた

入団後くくくく

クレア「ルーシー私は、右腕につけてもらったよくく♪」ヒヨコヒヨコ尻尾フリフリ♪

ルーシー「そうなんだ・・・私は右手だよ」なでなで

クレア「えへへ♪」フリフリフリフリ♪

カナ「モフりたい!?!?」

クレア「ダメ・・・」

グレイ「ちなみに聞くがその友達になった動物の名はてなんだ」

クレア「うーん九尾の藍だよ」

グレイ「Σ（・□・；）はあくくマジか・・・」

クレア「うにゆう？」クレアは首を傾げていると

マスター「お主どれだけすごい事かわかっておらんのじやろう規格外の魔力にしてもお主は、色々とやばいのじやがのう・・・」

クレア「うにゆう？」またしても首を傾げるクレアであった

マスター「まあ良いわい余りのその姿にならん事じや」

クレア「うにゆう？分かった？あつ？もう一つ魔法があつたレギオンっていうのがあるよ・・・」

マスター「なんじやその魔法は、」

クレア「能力はね・・・友達になつた魔道士の魔法が使えるんだよ♪ちなみに滅竜魔法も使えると思う？」

マスター「なんというかお主規格外じやのー？(☒?☒)」

クレア「うにゆう？」

クレアは、そこまで力に貪欲では無かったのが救いである

続く